

# 第37回ティーボール秋季大会 試合ルール

緑区少年野球連盟（運営部）

1. 試合は5回までとし、時間は30分とする。試合開始後30分を経過したら、新しいイニングに入らない。  
(コールドゲームはなし)
2. 規定回数終了時点で同点の時は、規定時間内であれば、特別ルールを適用する。  
特別ルールは、ノーアウト満塁、一塁ランナーは5回の最終打者、以下順次前の打者を一塁、二塁、三塁に配置し1回のみ行う。なお、同点の時はチーム代表9人による抽選とする。  
三位決定戦、準決勝戦、決勝戦は時間に関わらず5回までとし、同点の場合は、特別ルール（1回）により勝敗を決定する。
3. 塁間は18.3m（塁間にはハーフラインを設ける）、内野側ファールラインは半径4.5m、ピッチャーサークルは、本塁より12.3mの位置を中心に、半径2mの円とする。
4. 本塁よりフェアウエーグラウンド内へ扇状に45mラインを作り、打球がノーバウンドで超えた時はホームランとし、それ以外で抜けた時は、2塁打（テイク2）とする。  
送球によるボールデットも、テイク2とする。
5. 守備は9名、守備交代は自由、打者は登録メンバー全員が打つ。
6. プレー中ピッチャーへ返球し、ピッチャーサークル内でボールに触れた時、ボールデットとする。  
ただし、走塁中の時は、ランナーに走塁権を与える。（塁間の1/2ラインを超えていること）
7. 守備側の監督またはコーチ（2名まで）は、フィールド内での指導は可。  
なお、プレー中のボールに触れた時は、触れた時点で、ボールデット・テイク2とする。  
攻撃側の監督、またはコーチは、コーチャーボックスでの指導を認める。  
(指導者は選手に触れての指導はできない。)
8. 攻撃は3アウトまたは、打者9名でチェンジ。
9. 9人目の打者を迎えた時のアウトカウントは、2アウトとする。  
また、9人目のバッターの打球がノーバウンド以外で、45mラインを超えた時は、テイク2とする  
(2008.9 改定)  
なお、9人目の打者2アウト満塁の時、打球をピッチャーに返してボールデッドにした場合は、走者が塁間の1/2を超えていなくても押し出しにより得点を認める。(2009.2 改定)
10. 走者は、打者がボールを打つ前に離塁はできない。
11. 2ストライク後の空振りまたはファールは、アウト。(2019.2 追記)
12. バント、および、ハーフスイングは空振りとみなす。  
(フルスイングと認められない時は、空振りとみなす) また、ティースタンド部分を打ってボールを飛ばしても空振りとみなし、ストライクとコールする。(2009.2 改定)
13. その他
  - 1) 試合開始前にメンバー表3枚を主審に提出のこと。  
(打順で1~9番の中でいわゆるDHは認められない。)(2009.2 追記)
  - 2) 選手は必ず背番号を付けること。
  - 3) ベンチに入れるのは、監督、コーチ2名、登録選手のほか、代表者、マネージャー、スコアラー各1名とする。(チーム帽着用のこと)  
ユニフォーム着用の場合の身だしなみはAクラス・5年生以下大会に準ずる。

- 4) 危険防止のため、ベンチ内に入れ使用できるバットは2本までとする。
- 5) 大会競技中に負傷等の事故が生じて、主催者はその責めを負わない。
- 6) 必ずスポーツ障害保険に加入のこと。
- 7) 主審、塁審および記録員は、当日試合を行うチームの審判員が行う。
- 8) 当日試合を行うチームの審判員は、試合開始60分前に来場しグラウンド作成等の準備を行う。
- 9) 試合消化の関係上、2連戦になる場合もある。  
(この場合には10分間の休憩時間を取る)

#### **【主審を行う上での注意事項】**

- 1) ボールデッドのコールは、はっきりと大きな声をお願いします。
- 2) 本塁上でのクロスプレーがあるので、本塁へ向かう走者がある場合は、テースタンドを邪魔にならない場所に移動させてください。
- 3) 進塁の可否を決めるのは、走者がハーフラインを越えるタイミングと、投手が返球をサークル内で触れるタイミングです。  
両方がよく見える三本間のハーフライン近くまで移動し判断してください。
- 4) バッターボックスからはみ出して打つ、打者が散見されます。  
特に後方のラインに注意してください。